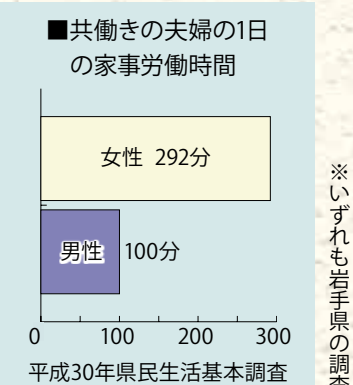
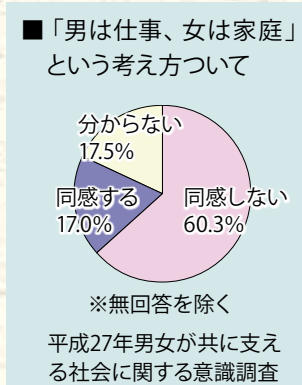


表紙の答えは 40代の男性

皆さんはどんな人物を
想像しましたか？



ところで、私たちが男女共同参画について研究を始めたのは、「どうしてお母さんは家庭でも仕事でもフルタイム？」と疑問に思ったからです。右のデータを見ると「男は仕事、女は家庭」という考えに同感しない人の方が多いのに、共働き世帯の女性の家事時間は男性の約3倍！



意識は変わってきてるのに、実態が変わらないのは何でだろう？



原因の1つに「家事は女性」という「無意識の偏見」があると言われています。表紙のクイズも、女性を想像した人が多いのでは？ 答えを見て「意外」と思った人は、無意識の偏見を持っている可能性があります。



無意識の偏見って何だろう？



無意識の偏見を知ることが、自分らしい生き方を選択できる未来につながるかもしれません。一緒に学んでいきましょう！



男だから——。女だから——。

あなたの可能性を狭める「無意識の偏見」

【問】男女共同参画推進室 ☎626-7525

1 無意識の偏見とその影響

★ 無意識の偏見とは

自分の育った環境や経験から、いつの間にか刷り込まれた先入観や思い込みのことです。

偏見の対象は、男女や年齢、人種、貧富などさまざま。無意識の偏見に基づいて、客観的な根拠なしに人や自分自身を判断してしまうことで、さまざまな悪影響が生じることが指摘されています。重要なのは、多かれ少なかれ誰もが持っているものだ気付くことです。



このページでは、日本に根強く残っている、「性別」を理由とした無意識の偏見について考えていきます

★ どんな影響があるの？ その1

採用・評価・昇進（特に女性の活躍）

採用や人事の場で、無意識の偏見が女性やマイノリティー（少数民族やLGBTなどの社会的少数者）に対して不利益に働くことが分かっています。

例えば、「女性は管理職には向いていない」という無意識の偏見により、昇進を見送られることなどです。その女性が優秀な人材だったとしたら、それは組織にとって大きな損失。さらに、女性の活躍を阻む原因にもなります。日本は女性の活躍が特に進んでいないことが、データで明らかになっています。

男女平等ランキング2017（144カ国中）

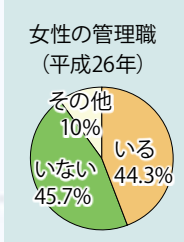
上位	下位
1位 アイスランド	112位 モーリシャス
2位 ノルウェー	113位 ギニア
3位 フィンランド	114位 日本
4位 ルワンダ	115位 エチオピア
5位 スウェーデン	116位 ベナン

※世界経済フォーラムによる「ジェンダー・ギャップ指数」。男女間の格差を経済・教育・政治・健康の4分野から数値化し、ランク付けしたもの

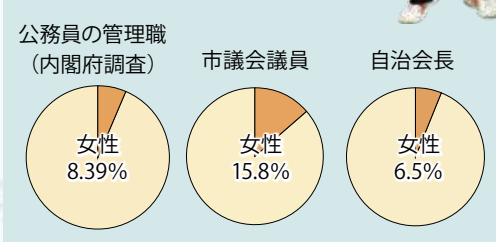
日本は過去最低の順位を更新



県内民間事業所



盛岡市（平成30年）



★ どんな影響があるの？ その2

自身のパフォーマンスの低下

無意識の偏見に基づく考えや判断により、やる気を失ったり、自分自身も「できない」「向いていない」と思い込んでしまったりすることです。

女性の自立と社会参画に取り組んでいる、もりおか女性センター長の平賀圭子さんに、相談業務などを通して感じる無意識の偏見の影響について聞きました



グループのリーダーは自分にはできないと思い込んでいたのも、「男性がやるもの」という無意識の偏見があったからかも…

価値観の刷り込みは、生まれた時から始まっています。女の子には「優しくね」、男の子には「元気そうね」と声を掛ける。無意識の偏見はこういった日常生活の連続ででき上がっていきます。昨年度、センターには1567件の相談が寄せられましたが、無意識の偏見が原因の根底になっているものが多いです。例えば、女性が家事と子育てを一人で背負い「上手くできない自分は駄目だ」と思い悩んでしまうケースも、根底には「子育て・家事は女性の仕事」という思い込みがあると考えられます。

もりおか女性センター長
平賀圭子さん



2 背景に「無意識の偏見」があるかも！？ 当たり前を疑ってみよう

よくある事例を紹介します。この背景に、無意識の偏見がありそうです。無意識のうちに、個人の能力や可能性を狭めてしまう可能性があることを知しましょう。



学校

理系に進む女子は少数派だ

思い込み 男性は理系、女性は文系が得意

本人や周囲がそう思い込むことで、進路や職業選択の幅を狭めてしまう可能性があります。



家庭

男性が子どもの迎えや健診に行くと注目される

思い込み 子育ては女性の仕事、女性の方が向いている

出産・授乳以外は男性もできます。男性が子育てに参加しづらい状況につながります。



地域

地域の集まりでは、男性がまとめ役、女性がお茶出し

思い込み リーダーは男性、サポートは女性の役割

そのような役割分担をする必要性は本来ありません。お茶出しの間、女性は話し合いに参加できていますか？



仕事

子どもがいる女性に出張が伴う仕事は依頼しない

思い込み 子どもがいる女性に出張は難しい

子どもを預ければ出張に行ける女性もいるかもしれません。過度な配慮が、モチベーションの低下や成長機会の喪失につながることも。



仕事

業務量が多く大変な仕事は男性が担当する

思い込み 男性は家族を養うものだから、残業するのは仕方ない

男性の長時間労働や、子育て・介護に関わりたくてもできない状況につながります。



さまざまな場面で

女性が意見を強く主張すると「協調性がない」と言われる

思い込み 女性は意見を言わずに従うもの

男性が同様に主張したら良い評価を受けることはありませんか。女性が発言しにくい雰囲気をつくってしまいます。



3 個性や能力が尊重される社会にするために

岩手大男女共同参画推進室では無意識の偏見の影響を減らすための取り組みを進めています。准教授の堀久美さんに、悪影響を減らす方法を聞きました



取材を終えて

無意識の偏見は、誰もが持っているもので完全に無くすことは難しいです。しかし、その影響を少なくすることはできます。例えば、次のようなことに気を付けてみましょう。

★ 「自分には偏見がない」という認識を「自分も含め、誰もが偏見や決めつけの影響を受けている」に改める

★ 次世代に受け継がない
無意識の偏見は、育った環境で知らず知らずのうちに身についていくもの。「男のくせに泣くな」「女なのはどうして片付けないの」など、男女を理由にしたしかり方や褒め方をやめましょう。

★ 直感で判断しない

例えば、地域の自主防災組織で、炊き出しの担当は女性と決めつけていませんか。炊き出しは、食材の量も調理器具も家庭とは違います。一旦立ち止まって考えてみると、飲食店の経験者など、これまでと違った人が浮かんでくるかもしれません。同様に、仕事の採用の場面でも、本当に必要な能力と評価基準を明確にし、その事実を基にふさわしい人を選ぶことが大切です。

これからは、多様性・複雑性に対応できる社会が求められます。無意識の偏見の影響を減らすことは、個人の能力や個性が尊重され、誰もがその人らしく活躍できる社会につながります。



岩手大男女共同参画推進室
堀久美准教授

市長コラム 盛岡市長 谷藤 裕明

一人一人が自分の持つ個性や能力を発揮できるまちを目指して、市は男性の家事・育児支援や女性の就業・起業支援などに取り組んでいます。4月には、私も含め、市の課長級以上170人が「モリ☆ボス宣言（盛岡市役所版イクボス宣言）」に署名しました。盛岡にいると自分が生き生きと輝ける、そんなまちづくりに男女共同参画の視点から取り組んでいます。

※仕事と生活を両立しやすい環境の整備に努め、自らも両立に取り組むリーダー



広報もりおか 30. 10. 1 3

2 広報もりおか 30. 10. 1

11月1日号の特集テーマは「盛岡の食と農」です